

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 5 部門第 3 区分
【発行日】令和 4 年 1 月 20 日(2022.1.20)

【公開番号】特開 2020-169760(P2020-169760A)
【公開日】令和 2 年 10 月 15 日(2020.10.15)
【年通号数】公開・登録公報 2020-042
【出願番号】特願 2019-70764(P2019-70764)
【国際特許分類】

F 2 5 D 9/00(2006.01)

10

F 2 5 D 17/02(2006.01)

F 2 5 D 13/00(2006.01)

F 2 8 D 7/10(2006.01)

【F I】

F 2 5 D 9/00 B

F 2 5 D 17/02 3 0 3

F 2 5 D 13/00 B

F 2 8 D 7/10 Z

【手続補正書】

20

【提出日】令和 4 年 1 月 11 日(2022.1.11)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 5】

前記ボディ 7 1 は、前記溶接 W でシェル 4 4 に対して固定された固定用筒状部 7 3 と、内周に前記シール部材 7 2 が配設されたシール用筒状部 7 4 とを互いに結合することによって形成されている。前記固定用筒状部 7 3 は、シェル 4 4 の外部に配された端部に雄ネジ部 7 5 を一体に有している。そして、該雄ネジ部 7 5 の先端部の内周には、該雄ネジ部 7 5 の先端に向けて内径をリニアに拡大させる傾斜面 7 6 が形成されている。一方、前記シール用筒状部 7 4 は、前記固定用筒状部 7 3 側の端部の内周に雌ネジ部 7 7 を有している。そして、該シール用筒状部 7 4 の内周における雌ネジ部 7 7 よりも奥側には、該雌ネジ部 7 7 側に向けて内径をステップ状に拡大させる段部 7 8 が形成されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

40

【0 0 5 3】

次に、第 4 ステップとして、循環液の設定温度を第 2 ステップの設定温度まで低下させると、循環ポンプ 2 4 a については、前記第 3 ステップに引き続いて前記所定の高回転数に維持される。

一方、冷却ポンプ 2 3 a については、それと同時に一旦回転数を前記第 1 ステップのアイドル回転数よりも高回転数まで上昇させた後、循環液の測定温度が設定温度に到達する前の所定のタイミングで、該回転数を徐々に低下させていく。その後、循環液の測定温度が設定温度に到達した時点で回転数の降下を止め、測定温度と設定温度とが一致した状態においては、その回転数(第 2 ステップ時と同回転数)が維持される。

【手続補正 3】

50

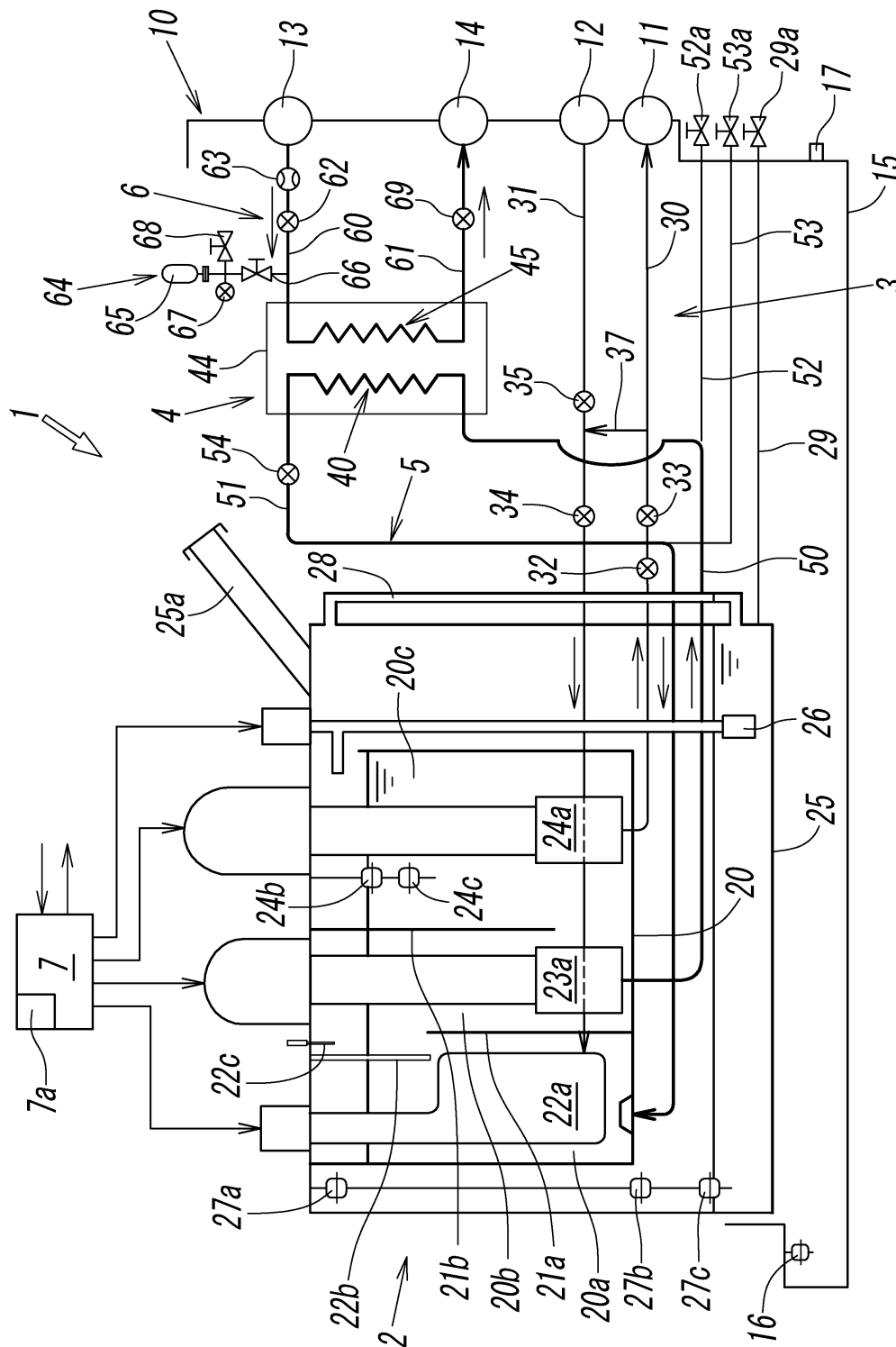
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 1 】



10

20

30

40

50